

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 1 日現在

機関番号：62601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22730679

研究課題名（和文）

ヨーロッパ諸国におけるムスリム移民の教育と社会統合に関する研究

研究課題名（英文）

Education and Integration for Muslim Immigrants in Europe

研究代表者

丸山 英樹 (MARUYAMA, Hideki)

国立教育政策研究所 国際研究・協力部 総括研究官

研究者番号：10353377

研究成果の概要（和文）：

本研究では欧州におけるムスリム移民の統合を形式面と実質面から整理し、前者の整備は進んでいるが後者には更なる可能性があることを把握した。宗教実践を重視する、特に社会的アクセスが限られているムスリム女性移民の場合、実質的統合が重要となる。それを促進するのは、ノンフォーマル教育によって自信を持つようになった学習者が、同様の課題を抱える女性から母語で支持されながらも、社会参加することであることが分かった。

研究成果の概要（英文）：

This study illustrates instrumental and constitutive aspects of integration for Muslim immigrants in European societies and points out the potentials in the latter aspect. The constitutive integration is important for Muslim immigrant women, especially who emphasize religious practice with limited access to host society. The study identifies they promote the constitutive integration as they are empowered in non-formal education project, while they are trustfully supported by those share such experiences and cultures as a mother language and habits.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1000 千円	0 千円	1000 千円
2011 年度	900 千円	0 千円	900 千円
2012 年度	1100 千円	0 千円	1100 千円
年度			
年度			
総計	3000 千円	0 千円	3000 千円

研究分野：教育社会学

科研費の分科・細目：若手研究(B)

キーワード：教育学,比較教育,移民教育,社会関係資本,トルコ,ドイツ,イスラーム教育,ノンフォーマル教育

### 1. 研究開始当初の背景

これまで研究代表者は、欧州諸国に移民を送り出しているトルコ共和国の近年の教育改革に見られる世俗主義とイスラーム主義の相克に関する研究、同時に主にドイツとスウェーデン在住のトルコ移民を対象とした調査研究を行い、それらを横断するよう

に続可能な社会に向けた学校内外の教育実践について文化的多様性と社会的関係性の点から研究を行ってきた。そして、トルコ移民の教育には、出身地との関係が重要であり、受入国の政策的主導に加え、市民の参加が地域社会の取り組みを定めるという知見を得た。これをさらに学術的に深化させるため、

わが国では未だ蓄積が比較的少ないイスラームと教育に関する研究上の意義、及び将来わが国が行う可能性のある移民受入に関する対応への貢献という社会的意義から、本研究の着想に至った。

本研究のキーワードは、「社会統合」、「イスラーム教育」、「ソーシャル・キャピタル」である。まず、欧州における「社会統合」では、移民の子どもの学力と社会経済的背景（OECD 2006）や6つの政策分野から移民の社会統合状況を指標化した移民統合政策指標（MIPEX 2007）等が研究に用いられている。統合に重要だとされる言語教育としては、複言語主義（James & Garret 1992）が主流となり、欧州言語共通枠組（CEFR）や実践事例も増加している。また、欧州受入社会への統合に対する阻害要因として、2001年の9.11テロに前後して暴動などの社会的不安定要素が強くなったこともあり、イスラモフォビア（イスラーム嫌悪）の研究も多い（Commission on British Muslims and Islamophobia 1997; Runnymede 2003; van Driel 2004; Richardson 2004; EUMC 2006）。さらに、少数集団の異文化適応に関する理論（例：Berryら1992; 2001）は、統合、同化、分離、境界化という分類で移民の社会的位置づけを整理する。これらの研究では、トルコ移民は統合や同化を避け、分離傾向を持つことが指摘されている。なお、日本国内におけるムスリムについて学校教育と社会統合の側面を扱ったもの（杉本 2000; 桜井 2003）では、学校の強い同化主義と社会の弱い宗教的圧力が述べられている。

第2のキーワード「イスラーム教育」については、近代教育の体系とは必ずしも同様ではないことが指摘され、その対応・経験も欧州諸国では蓄積されている。例えば、次のような記述である。神の言葉を記した聖典クルアーンが書かれているアラビア語では元来、教授、訓練、躰などの間の区別はない（Bahgat 1999）。ムスリムは知識、身体的成長、礼節を獲得することが重要とされ（Halstead 2004）、暗記中心の学習はクルアーンの朗読と生涯をかけたムスリムとしての実践に求められる（Boyle 2007）。そして、保護者はそうした教育を子どもに保障する義務があるとされる。教師向けにムスリムの子どもと保護者への対応について多様性と保護者・学校間の協働を記したもの（例：Parker-Jenkins 1995）でも、学校のみでムスリムの教育は収まらないことが言及されている。このことから、ムスリムが求める教育は、学校教育に加え、モスク（イスラーム寺院）や家庭の教育が含まれることが言える。従って、本研究では教育を、学校内か外かという形式的な分類ではなく、学習者の背景・文脈及び参加によって捉える近年のノンフォーマル

教育の理論（Rogers 2004）を用いる。

そして第3の「ソーシャル・キャピタル（SC）」は、社会関係資本という訳語が当てられている通り、個人の蓄積する能力や財産等の他の資本とは異なり、集団における利益及び機能の集合である。その研究には、教育への資源としてBourdieu(1986)やColeman(1988等)、相関としてPutnam(2000等)、成果の一部としてFukuyama(1999)やBaronら(2000)等がある。国際機関では、地域開発の鍵概念として扱った世界銀行(Narayan 1999)、SCを学習成果の一部として捉えるOECD(2001; 2007)があり、Field(2008)はSC研究とその重要性が増していることを指摘する。国内におけるSC研究は内閣府(2007)や地方自治体(例：北海道2006)の他、教育研究(例：『教育学研究』第73号等)もある。これらの研究で用いられるSCの形態には、同質的な集団内における強い「結合」、異質な集団間における「橋渡し」、行政サービスなどの関係を扱う「リンク」がある。本研究申請者のこれまでの研究から、ムスリム移民に特徴的な傾向として、強い「結合」があり、本来「橋渡し」で扱われるネットワークもイスラームのものに限られ、「リンク」を利用する集団と完全に分離している集団が見られた。ここでも「社会統合」と関連する異文化適応理論の分類を用いることができる。なお、教育成果としての人的資本に比べ、本研究においては、教育との間には資源かつ成果というSCの循環が捉えられることに留意する。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、イスラーム教徒（ムスリム）移民の受入社会に対する社会統合にはソーシャル・キャピタルの蓄積が影響を持つことを、学校内外の教育実践に着目し、移民の視点から明らかにすることであった。

これは、i) ムスリム集団は民族的多様性を伴いつつも、滞在先への同化はあまり見られない、ii) ムスリム家族にとってイスラーム教育と近代教育の間に乖離がある、iii) それらの背景にはムスリムのネットワーク、参画、規範があることを比較教育研究によって体系化を試みるものであった。

## 3. 研究の方法

本研究で用いた方法は、文献調査・理論研究と海外フィールド調査による聞き取りであった。

## 4. 研究成果

まず、本研究による知見を次の3点紹介する。1) 欧州におけるムスリム移民の統合を形式的統合と実質的統合の両側面から整理し、前者の整備は進んでいるが後者には更な

る可能性があることが示唆された。宗教実践を重視する、特に社会的アクセスが限られているムスリム女性移民の場合、実質的統合が重要となる。2) 受入社会において外部との接触を持つ学童や男性移民を一方の極とし、他方に外集団との接点が最も小さいムスリム女性を位置づけ、彼女たちを主な研究対象として、統合の幅を指摘することができた。これによって、統合には多数派と少数派の双方の歩み寄りが重要であることを示された。3) 実質的統合を促進するのは、ノンフォーマル教育によって自信を持つようになった、それまでは制限を受け入れていたムスリム女性の学習者が、同様の課題を抱える女性から母語で支持されながらも、エンパワーされ、社会参加することであることが分かった。

こうした知見を得ることができたのは、既に研究代表者が欧州における移民の教育に関する研究とイスラーム教育に関する研究を蓄積、そしてソーシャル・キャピタル研究を進め、これらの蓄積の上に、本研究を展開できたことが理由として挙げられる。以下に、本課題研究による研究成果を具体的に列挙する。

本課題研究による文献調査・理論研究では、社会統合に関連し、EUにおける複言語主義の背景と実践事例、移民研究、エンパワメント研究のレビューを行い、それぞれ論文とした。複言語主義は多言語主義の理想状態よりも現実的な状況への対応ともとられ、その背景には欧州における移民の存在があることを、欧州理事会の資料で裏付けた。移民研究レビューでは、他分野における研究蓄積を概観した後、教育研究としての課題について記した。特に、学際的アプローチが今日の動的なトランスナショナル状況に必要であることを指摘した。エンパワメント研究によって、社会的弱者と位置づけられる中でも外部との接点が極端に小さいムスリム女性に対するアプローチを整理した。イスラーム教義および伝統的規範による教育ニーズと欧州受入社会における価値観との間にあって、いかに女性たちが外部からの圧力および周辺環境ならびに自らの意識の影響へ対応するかを3つの層で整理することができた。

海外フィールド調査として、トルコ教育省、欧州評議会、在ドイツ・トルコ大使館、教育NGO、宗教団体、ベルリン行政府、大学など研究機関へ聞き取りを行い、移民の社会統合に取り組みの詳細な情報を得た。それらから、ホスト側（ドイツ）の教育支援だけではなく、出身側（トルコ）からの支援も構造化されたものが重要であることが示唆された。また、ドイツ（ベルリン）において母親ムスリムを主な対象としたノンフォーマル教育支援事業について、これまでの研究蓄積としてまとめ、論文および国内外の学会において成果発

表し、評価を得ることができた。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

1. 丸山英樹 (2012) 『ノンフォーマル教育による社会参加とエンパワメントーベルリン在住トルコ女性移民の社会福祉事業を事例としてー』学位請求論文, 査読有
2. 丸山英樹 (2011) トルコ移民のノンフォーマル教育による社会参加とエンパワメント『比較教育学研究』44: 3-23, 査読有
3. 丸山英樹 (2011) 世界の動き 欧化から多様化へートルコの教育ー『内外教育』6074: 10-13.
4. 丸山英樹 (2011) トランスナショナルなムスリム移民の教育研究に関する課題『国立教育政策研究所紀要』140: 265-279, 査読有
5. Maruyama, H. (2010). Social Competence: A Learning Outcome of Policy and School Practice in Education for Sustainable Development in Japan. *International Journal of Educational Policies*, 4(2): 5-18, 査読有
6. 丸山英樹 (2010) 国際的に認知される言語の多様性と欧州の言語教育政策の背景『国際理解教育』16: 49-86, 査読有
7. Maruyama, H. (2010). Non-Formal Education for Sustainable Integration: "District Mother" project for the Turkish immigrants in Berlin, XIV WCCES Proceedings, 14, 査読有

〔学会発表〕（計11件）

1. Emotion First for Empowerment and Participation of Muslim Immigrants in Europe (57th Comparative and International Education Society) 2013年3月11日(単)
2. トルコ移民のノンフォーマル教育による社会参加とエンパワメント: ベルリン「地域の母」事業を事例に, 日本教育社会学会第63回大会, (お茶の水女子大学) 2011年9月24日(単)
3. Non-formal Education Revisited: Restructuring the Discourse and Research Area, Eighth Biennial Conference of the Comparative Education Society of Asia (CESA),

- (Chulalongkorn University), 2012年7月9日(単)
4. An Outcome of Non-Formal Education among Female Muslim Immigrants: Case Study of German Official Project for Empowerment and Participation of the Turkish Minority, Japan Society for Educational Sociology (Ochanomizu University), 2011年9月23日(単)
  5. トランスナショナルなムスリム移民の教育研究に関する課題, 日本比較教育学会第47回大会(早稲田大学), 2011年6月25日(単)
  6. What is NFE? -possibilities and limits-, Pakistani Government and JICA Symposium (Punjab Government), 2011年2月19日(招待講演)
  7. 持続可能な開発のためのノンフォーマル教育, 第4回ノンフォーマル教育研究会(立教大学), 2010年12月10日(単)
  8. 移民に関する教育研究レビュー, 第三世界の教育研究会 2010年10月例会, 2010年10月16日(単)
  9. Non-Formal Education for Sustainable Integration: "District Mother" Project for the Turkish Immigrants in Berlin, XIV World Congress of Comparative Education Societies, 2010年6月16日(単)
  10. Comparative Analysis of the Effect of Non-formal & Informal Learning for the Well-being of Lifelong Learners, XIV World Congress of Comparative Education Societies (Bogazici University), 2010年6月15日(共同)
  11. 欧州の社会統合政策に見る言語と文化-トルコ系移民を中心に-, 日本言語政策学会(麗澤大学), 2010年4月24日(招待講演)

[その他]

ホームページ等

<http://researchmap.jp/hidekimaruyama/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

丸山 英樹 (MARUYAMA, Hideki)

国立教育政策研究所・国際研究・協力部・  
総括研究官

研究者番号: 10353377